

特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr.315

März 2017

NPO 法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館 19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE

GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

60周年を迎えた神戸日独協会ドイツ語講座

神戸日独協会ドイツ語講座・ドイツ文化教室2017年度第I期は4月より開講します。

ドイツ語講座は1957(昭和32)年4月に開講され、今年で60年を迎えました。「神戸日独協会30年史」によると、当初は神戸日独協会とミュンヘン・ゲーテ協会との共催で始まり、文法・訳読を主とするクラスを神戸大学教授であった加藤一郎元会長が、会話を主とするクラスをゲーテ協会講師であった Werner Rilz 氏が担当され、各コースとも初級・中級の2クラスで始めました。現在と異なるのは、各クラスとも1時間半週2回の授業でした。「30年史」には「合計135名の聴講者で、定員超過の大盛況であった」とあります。神戸日独協会のドイツ語講座は以後60年間「楽しく・ゆっくり・着実に」をモットーに連綿と開講されている神戸、否西日本で最も伝統のあるドイツ語講座なのです。

神戸日独協会ドイツ語講座の特徴は長い伝統に加えて、一般の語学学校やカルチャーセンターのドイツ語講座と異なり、長くドイツとの親善交流に貢献してきた「神戸日独協会」が運営していることです。協会ではドイツ、日独交流に関する講演会、文化教室、コンサートなど多彩なイベントを提供し、講座受講の皆様のドイツとドイツ語に対する関心と理解をより深めていただいていることです。

会員の皆様のご参加ご協力をいただき、この伝統ある「ドイツ語講座」が隆盛に続くことを願ってやみません。

神戸日独協会ドイツ語講座・ドイツ文化教室2017年度第I期開講

神戸日独協会ドイツ語講座・ドイツ文化教室2017年度第I期は4月10日(月)より開講します。講座・教室の詳細については、同封のパンフレットをご覧ください。4月からの講座・教室に奮ってご参加ください。

神戸日独協会 ドイツワインの会

第3回「葡萄とドイツワイン」 /3. Mal: Weintrauben

神戸日独協会では、“日常生活の中でワインを楽しめるようになるきっかけづくり”をコンセプトに、日ごろ曖昧にしがちなワインの「いろは」を振り返り、試飲をしながらドイツとその食文化への理解を深める「ドイツワインの会」を開催しています。

第3回目のテーマは「葡萄とドイツワイン」。講師の松田耕治氏より、葡萄の品種についてドイツの地理や地質に触れながら解説、また今回は、2000年ヴィンテージワインと2015年の比較試飲を実施いたします。フレッシュなワインと熟成ワインの違いとは？自分の好みはどっち？学んだことは家族や友人に共有(自慢)しましょう。

初参加でも大丈夫です。皆さまお誘いあわせのうえ、ぜひご参加ください！

日 時／Zeit: 2017年3月26日(日曜日)14:00／14:00 Sonntag 26. März 2017

場 所／Ort: 神戸日独協会会議室 /JDG Kobe

定 員／Teilnehmerzahl: 20名(先着)／ bis 20 Personen

※定員を超えた場合はキャンセル待ち

費 用／Kosten: 2000円／2,000 Yen (会員: 1800円／Mitglied 1,800 Yen)

当日会場にてお支払ください。

※締め切り日以後にキャンセルされた場合、後日料金を請求いたします。

ご了承ください(締め切り日の申込者数でワインを発注するため)。

申 込／Anmeldung: 2017年3月21日(火曜日)まで／Bis Dienstag 21. März 2017

Tel: 078-230-8150 E-mail: info@jdg-kobe.org

※初参加の方は、お申し込み時にお知らせください(テキスト準備のため)。

第4回開催予定／5月28日(日)「ワインの産地を知る」

日独若者の「神戸再発見」

Gemeinsam Kobe neu entdecken

第38回 竹中大工道具館 訪問

今回、新神戸に移転した竹中大工道具館を訪問します。普段の生活では、なかなか見ることが出来ない日本古来の大工道具や海外の道具にふれてみて、神戸をより深く知るきっかけにしてみませんか？博物館そのものの佇まいも必見です。

- 日にち／Zeit: 2017年4月1日(土)13:30～15:30ごろ Samstag 1.4 2017 13:30～15:30
- 場所／Ort: 竹中大工道具館 Takenaka Daiku Dōgukan
- 費用／Kosten 入場料500円 500yen
- 申込／Anmeldung: 2017年3月29日(水)までに Bis Mittwoch 29. 3. 2017
Tel: 078-230-8150 E-mail: info@jdg-kobe.org

協会HPの利用状況「ドイツ語講座に熱い視線」

理事(ホームページ担当) 日下 澄子

2016年4月20日、協会ホームページ(以下HP)をリニューアルしてもうじき一年が経ちます。どんな人が訪れ、どんな情報を求めているのかを調査するため、閲覧状況を計測しています。さて、どんな結果が出たのでしょうか。少し紹介いたします。

集計期間:2016年12月6日～2017年3月5日(90日間)

どのくらい見られているのか？

90日間で見られたページ数は9,944。一日平均110ページが見られています。時期によってばらつきがあり、イベントの直前になると閲覧者が増加します。3月5日(日)講演会の直前7日間には一日平均200ページが閲覧されました。

どんな人が閲覧しているのか？

国別割合は、日本90%/ドイツ3.2%/アメリカ2.1%。日本の市町村別割合は、神戸市29%/大阪市20%/新宿区6.7%と東京が3位にランクイン。東京の日独協会でしょうか。ドイツではBavaria24%/North Rhine-Westphalia22%/Berlin16%/Baden-Wuerttemberg16%です。一方、閲覧者の言語設定別の割合は、日本語86%/ドイツ語(オーストリア含む)4.37%/英語(米・英)3.5%です。ドイツ語が母語であることが推測される人からの閲覧が計測されていますが、現状ではドイツ語を記載しているページが少ないため、今後の課題と感じています。

何を見ているのか？

トップページを除けば、「ドイツ語講座」ページの閲覧回数が抜きん出ています。次に「お知らせ」のドイツ語講座第IV期募集開始の記事が続きます。さらに、協会HPを見に来た人が使った検索ワードは、既に協会の存在を知った上での「神戸日独協会」に次いで、「神戸市 ドイツ語」「ドイツ語 神戸 レッスン」など、神戸でのドイツ語学習のニーズの高さを伺わせるものでした。神戸日独協会に対して、ドイツ語修得の場として熱い視線が向けられていることを感じます。そしてやはり講演会や新年会、ドイツワインの会などイベントの直前になると「お知らせ」記事の閲覧数が増加します。

HPが、ドイツ語講座やイベント等の情報を探しにきた人の受け皿となっていることを実感するとともに、わかりやすい情報掲載と、閲覧者に協会の魅力をアピールする場として、内容の充実に努めていきたいと考えています。

ドイツ語談話室

第159回ドイツ語談話室

日時：2017年2月18日(土) 14-16時

場所：神戸日独協会 会議室

テーマ：冬の過ごし方

今回の司会は梅崎敬二氏が担当され、テーマの冬の過ごし方に因んで、日本の家庭で新春に伝統的に行われるかるた遊び、百人一首を取り上げられた。

参加者の皆さんから、各々の冬の過ごし方の話が出た。以下その一部を紹介。

—60年近く前のハンブルクに住んでいた時の暖房は、石炭を焚くボイラーで、子供たちは石炭庫からボイラーに石炭を運ばされた事を思い起こす。

—冬の朝は寒いので遅くまで寝床の中に潜っていて、起きてから熱い風呂に入って体を温めることにしている。

—子供の頃は冬が好きで、雪遊びを楽しんだ。今は、コタツに入ってみかんを食べ、頭寒足熱を実行している。お天気の良い日は、公園の散歩も楽しむ。

—暑いスープをたくさん作り、部屋を暖めかつ乾燥も防ぐ。近くのスポーツクラブで、ヨガダンスほか多くのスポーツプログラムに参加し、あとはサウナでぬくもる。

—何事においても、せかせかと急ぎ立てるライフスタイルから抜けていたい。旧暦の季節感を大切にしたい。因みに2月はすでに春である。

—日本の家屋は、元来夏向きに出来ていて、冬にはとても厳しいので、良く動き回り健康に良い。今は、オール電化のマンションに越したので、とても冬が過ごしやすいが、不健康でもある。

—冬はオペラハウスや劇場に行くのが楽しみ。また、散歩も良くして、梅、牡丹、水仙ほか冬の花々を見るのも嬉しい。梅北にも最近素晴らしい公園が出来た。

—冬には、床暖房をフルに使ってとても気持ちよく過ごしている。床暖は静かで風もないのでとても健康的だ。お風呂は38℃位の低い温度で20分近くゆっくりとつかるのでよく眠れる。また、湯たんぽも便利で重宝している。

今後のドイツ語談話室の予定

第160回 2017年3月18日(土) 14時—16時 テーマ：私の好きな散歩道

第161回 2017年4月15日(土) 14時—16時 テーマ：トランプ論

Deutsche Gesprächsrunde

Protokoll der 159. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag 18. Februar 2017 14 bis 16 Uhr

Thema: Wie verbringt man den Winter am besten?

Dieses Mal hatte Herr Keiji Umezaki die Gesprächsleitung und erwähnte bezüglich des Themas das in Japan traditionelle Kartenspiel, Hyakunin Isshu, das zu Neujahr gespielt wird.

Die Teilnehmerinnen und Teilnehmer erzählten wie sie den Winter gern verbringen. Bei der Gesprächsrunde kam es unter anderem zu folgenden Wortmeldungen:

-Eine Teilnehmerin wohnte vor ca. 60 Jahren in Hamburg und erinnert sich, dass für die Heizung damals Kohle benutzt wurde. Die Kinder mussten die Kohle aus dem Kohlenlager holen und zum Boiler tragen.

-An kalten Wintermorgen bleibt eine Teilnehmerin länger im Bett und nimmt dann ein ziemlich heißes Bad, um sich anzuwärmen.

-Einem Teilnehmer hat als Kind der Winter sehr gefallen. Er spielte gern im Schnee. Heute sitzt er lieber am „Kotatsu“ (das ist ein Tisch mit eingebauter Heizung), nach dem Motto „zukan sokunetsu“ (Den Kopf kühl – die Füße warm!). Bei schönem Wetter macht er gern einen Spaziergang im Park.

-Eine Teilnehmerin kocht im Winter große Mengen an Suppe. Das wärmt auch das Zimmer und spendet Feuchtigkeit in der trockenen Winterzeit. Sie besucht auch ein Fitness-Center in der Nähe und nimmt dort an verschiedenen Programmen teil, inkl. Joga-Tanz. Danach geht sie in die Sauna und hält sich so warm.

-Eine Teilnehmerin stört der allgemeine, immer hastig eilige Lebensstil. Sie schätzt die Jahreszeiten nach dem traditionellen Mondkalender. Demzufolge ist der Februar schon Frühling.

-Ein Teilnehmer erwähnte, dass die traditionellen Häuser in Japan eigentlich für den Sommer entworfen sind. Im Winter sind sie beißend kalt. Man muss sich viel bewegen. Das hält einen gesund. Jetzt wohnt er in einem Apartmenthaus mit elektrischer Heizung. Da kann man den Winter bequemer verbringen aber vielleicht nicht so gesund.

-Eine Teilnehmerin geht im Winter gern in die Oper und ins Theater. Sie macht auch viele Spaziergänge und freut sich an den schönen Blumen auf dem Weg. Jetzt blühen die Pflaumen, Päonien und Narzissen. Vor kurzem wurde ein schöner neuer Park an der Nordseite des Hauptbahnhofs in Osaka eröffnet.

-Im Winter benutzt ein Teilnehmer den ganzen Tag die Fußbodenheizung und fühlt sich sehr wohl. Eine Fußbodenheizung ist ganz ruhig und macht die Luft nicht ungesund. Er

nimmt oft ein Bad mit lauwarmem Wasser bei ca. 38 Grad und bleibt am Abend ziemlich lange in der Wanne, ca. 20 Min.. Daraufhin kann er gut schlafen. Er benutzt auch eine Wärmeflasche. Wärmeflaschen sind sehr praktisch, denkt er.

Nächste Treffen:

Samstag, 18. März 2017, 14 bis 16 Uhr Thema: Mein liebster Wanderweg

Samstag, 15. April 2017, 14 bis 16 Uhr Thema: „Trumpologie“

行事参加感想

「神戸開港150年」記念特別講演会

「神戸開港後日独交流150年の足跡からの国際交流の将来的展望」に参加して

会員 Sung Kwang-Hye

神戸開港150年を記念し、3月5日(日)午後2時から神戸国際会館 会議室802・803にて特別講演会が開催されました。

少し遅れて会場に到着しましたが、空席を探すのが難しいほど会場は聴講者で一杯！熱気さえ感じられます。

講演会は、1. 基調報告「神戸開港後の日独交流、その特徴」神戸日独協会会長 柘田義一氏、2. 「時代の流れの中のドイツ総領事館 一回顧と展望、現在の課題」(通訳付き) 大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事 ヴェルナー・ケーラー氏、3. 「貿易から見た第二次大戦後の日独交流」神戸日独協会会員 大西晋輔氏、4. ドイツ人コミュニティとしての「ドイツ語プロテスタント教会神戸大阪」EKK代表 ミリアム・ミュラー氏と盛りだくさんの内容によるものでした。

それぞれの講演についての詳細内容は、割愛しますが、柘田会長の基調報告では、日独開港後の日独交流についての全体像が把握できる内容、それに続くケーラー総領事の講演内容からは、日独交流に尽力したドイツ人等が紹介されました。また、第二次世界大戦後の貿易に主要国としてのドイツ(当時は西ドイツ)が登場するには少し年月がかかっていること等、興味深く拝聴しました。私にとって普段接する機会がなかったドイツ語プロテスタント教会神戸大阪のミュラーさんのお話をお伺いすると、ドイツ人だけのコミュニティに留まらず、阪神・淡路大震災後は、地域のコミュニティとしてもご活躍されたご様子に感心しました。

現在、日本(人)とドイツ(人)は、似ている部分も多く(!?)、交流が活発に行われており、互いの信頼関係も深いといえるでしょう。しかし100年程前の第一次世界大戦の頃を見るとその様子は、現在とはかなり違うものなのです。私たちが今日、このように平和に相互理解の機会を得、友人となり得ていることは、先人達の弛まぬ努力の賜物なのです。そしてこれを次の世代に渡していくのが私たちの課題として、これからも努力を重ねていかなければと、再認識した日となりました。しかし、ドイツ再統一を学校の授業で初めて聞いたという若者に会うと、時間の流れはなんと早

いものか、と感じます。これからの150年は、「日独いつも仲良く！」を願ってやみません。

最後になりましたが、このような大掛かりな講演会の実現までは様々な道のりがあったことと想像いたします。(公財)兵庫国際交流協会平成28年度民間国際交流事業助成金対象に選ばれたことも神戸日独協会関係者の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

大阪造幣局の「桜の通り抜け」について

日独若者の「神戸再発見」では例年4月中旬の大阪造幣局の「桜の通り抜け」に行き、日独若者の交流を深めています。

本年の「通り抜け」の開催期間がまだ発表されていません。発表され次第、日時と集合場所を決め、ホームページにてお知らせいたします。奮ってご参加ください。

事務室からのお知らせ

新会員のご紹介(2016年度) (敬称略・順不同)

2016年上半期(4～9月)

個人正会員：石川 仁一

個人準会員：石川 真由美、中野 淑子、三浦 弘代、井本 徳子、久利 将輝、安井 沙織、
Demont Dominique、河野 早百合、永丘 恵子、杉本 徳子、中川 俱子、
中西 一弘、廣友 済

2016年下半期(10～3月)

個人準会員：中山 順子、佐藤 真由美

会報発送ボランティア募集

会報の発送を手伝ってくださる方を募集しております。会報の次回発送予定日は4月13日(木)です。お手伝いいただける方は、事前に事務室へご連絡(TEL/FAX 078-230-8150)の上、12時半頃事務室にお越しください。

※ 3月5日の「神戸開港150年」祝賀会にて、当方の不手際によりご参加の皆様方に領収書をお渡ししていませんでした。お入用の方は事務室までご連絡ください。
お手数おかけしますがよろしく願いいたします。

これからの神戸日独協会の催し

日時	催し	会場	申込〆切 など
3月18日(土) 14:00~	第160回 ドイツ語談話室	神戸日独協会 会議室 (19階)	当日参加可
3月26日(日) 14:00~	「ドイツワインの会」 第3回「葡萄とドイツワイン」	神戸日独協会 会議室 (19階)	3月21日(火)まで
4月1日(土) 13:30~	日独若者の「神戸再発見」 第38回 竹中大工道具館訪問	竹中大工道具館	3月29日(水)まで